

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678300106
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホームやくしま
訪問調査日	平成 19 年 9 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4678300106
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム やくしま
所在地	鹿児島県熊毛郡屋久町原馬石ノ下914-23 (電話) 0997-47-2010

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16-7
訪問調査日	平成19年9月10日 確定日 平成19年12月3日

【情報提供票より】(平成19年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(60000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	180 円	昼食 250 円
	夕食	290 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	0 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 72 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	屋久島徳洲会病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生垣がハイビスカスの花で作られ、明るく広く感じられるグループホームである。居室は、それぞれトイレが配置されプライバシーが守られ、利用者の笑顔・明るさで、安心して過ごしていることが感じられる。屋久町に、グループホームが二箇所しかなく、交流・研修が難しく感じられるがグループホームだけでなく、他の介護サービス施設・市町村の担当者などと協力され、介護サービスの向上に取り組まれることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の改善課題を職員に報告し、運営理念を重要事項説明書に明記し、地域に理念が明記されたパンフレットを配布して、啓発・広報に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価票に記入してもらい、検討して取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>本部に手続き中(人選など)で、まだ立ち上げていない。早急に第一回の運営推進会議を開催されることを望みます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見・苦情は、記録に残し職員で共有して、話し合い対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>集落の班に加入してなく、町の行事等は町広報誌にて情報を得ている。班に加入され、地域の方々と日々行き来する関係を作られることを期待します。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間としての尊厳を大切に基本理念ができています。一人ひとりの声を聞き、気持ちを大切に、職員は日々取り組んでいる。		今までの基本理念に地域密着型サービスの理念を付け加え、事業所独自の理念を作られることを、期待します。
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念を唱和して、業務を開始している。一人ひとりの声を聞き、気持ちを大切に、職員は日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	集落の班に、加入してない。地域の行事は、町報を見て出かけている。		ホームも地域の一員として地域の活動に参加され、地元の人々との交流に努められることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善点は、改善に仕組み改善された。今回の自己評価は、職員全員での取り組みがなされた。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在準備中で、まだ開催されてない。		早急に運営推進会議を開催されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口へは、出かけてはいるが、市町村との連携は取れてない。		市町村の担当者と協議しながら、共にサービスの向上に取り組んでいくことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態、金銭管理について報告している。状態変化があった場合は、随時電話で報告している。県外の家族には、毎月の請求書と一緒に写真、現状報告の手紙を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情を記録し、家族に説明し、納得してもらっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人入職時には、一週間職員を増員して事業所の流れ、利用者の把握に努めてもらい、利用者へのダメージを少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、研修を受ける機会の確保ができてない。		研修の年間計画を作り、法人内外の研修を職員が平等に受講できるよう期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	屋久町にもう一つのグループホームがあるが、交流はしてない。		同業者との交流をもち、相互訪問、勉強会などの活動を通じて、サービスの質の向上の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人と家族が見学され、納得してからの入所になっている。顔馴染みの職員、利用者がいるため、早く馴染んで安心して生活している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、お手伝いさせてもらっているという考えで利用者から学びながらサービスに取り組んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	外出希望の利用者には、墓参りに同行したり、ドライブに出かけている。時間で声かけて、トイレ誘導をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	職員間で気付きを記入し、家族・職員の意見を取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	二ヶ月から三ヶ月に1回、ケアプランを評価して見直しに結び付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて病院受診の送迎 通院介助をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を尾の間診療所において、1ヶ月に1回の往診を行っている。急変の時は、協力病院の徳州会病院に搬送することは、家族も納得している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、重度化の対応は入院して頂くことを家族に話し納得してもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の職員会議でプライバシーについて、話し合いをしている。個人情報の利用目的以外には使っていない。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全であればできるだけ希望に添うよう職員全員心がけている。早起きの人への対応・汚れたらいつでも入浴できるなど希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、下膳、トレー拭きなど、一人ひとりの力に合わせて利用者と職員と一緒に準備し、和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を月・水・金と決めているが、希望があればいつでも入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、洗濯物を各部屋に配る人・玄関のそうじをする人・味見をする人などそれぞれ役割をもち、好きな場所で昔の話・歌唱など楽しんで過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1週間に4回くらいドライブに行き、墓参りや昔の家の近くに行って地元の人と出会い、話す機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけてない。外出傾向のある人は、一緒に散歩して帰ってくる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回 夜間想定・消防訓練をおこなっている。台風の際は、台風情報により 水・非常食など2～3日分備蓄している。		毎月でも 火災・地震などを想定しての自主訓練を重ね、自信を持って非難誘導できるように期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が好む献立を作っているのですが、栄養バランスのチェックをしていない。		本部の栄養士に献立表を見てもらい、栄養のバランスをチェックしてもらうことを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は明るく、季節感のある貼り絵や利用者の作品が飾られている。廊下には長いすが置かれ、利用者が仲良く話をして、居心地よく過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にそれぞれトイレが設置されており、利用者の行動能力にあわせてベッドの位置に工夫が見られる。使い慣れた好みのものを置き、本人が居心地よく過ごされている。		